



街路樹



発行 第19号
平成20年2月12日(火)
いわき市総合教育センター
いわき市平字堂根町1-4
0246(22)3705

学力向上に向けて ⑩

本紙先月号(20年1月10日発行)では、私たちの研修の機会を、①校内研修(①OJT=On the Job Training)、②総合教育センターの研修等(②OffJT=Off the Job Training)、自主研修(③SD=Self Development・④HD=Home Development)に分け、それらが互いに補完しあって授業力の向上につながることを示しました。

私たちに専門職として研修が義務付けられています。私たちは様々な課題が目前に表れ、仕事の内容も多岐にわたっています。新たな問題への対応に迫られることにもあるでしょう。そのためには常に自分を磨くことが必要になります。

中央教育審議会が1月に出した「学習指導要領等の改善について」(答申)では、生きる力の重要な要素として、①基礎的・基本的な知識・技能の習得、②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等、③学習意欲を掲げています。

私たちがこうした力を子どもたちに身につけさせるためには、実は私たち自身が、①(教科の内容や指導法等についての)基礎的・基本的な知識・技能の習得、②(それらの)知識・技能を活用して(現在の)課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等、③(授業力・指導力を高めるための)学習(研修)意欲が重要な要素となります。児童・生徒のための教師としての自己マネジメントとして何をどこで行うか...多忙な毎日の中では、どうしても目の前のことに時間をとられがちですが、どこで、何ができるかを見通したときに、総合教育センターで行う研修の機会を生かせるのではないのでしょうか。

「優れた実践からもっと学びたい」という感想が研修の後に多く寄せられています。そうした意欲に応え、指導力向上の一助となるよう、私たちが今後の研修の充実を図っていきたいと思っています。

指導技術 ⑨

～学習を工夫する子どもが持つ主な資質～

その子どもが、いかに頭脳が明晰で、身体も丈夫だとしても、それまでに甘やかされて育った子どもでは、まじめに学習に取り組まないことが多いものです。そのため、家庭や学校では次のことをしっかりと身につけさせたいものです。

ア、学習に対する計画性
イ、物事に対する几帳面さ
ウ、実行力のある強い意志
エ、指導されたことを素直に受け入れる心
オ、学習に対する段取りのよさ

カ、ゆきとどいた学習準備
キ、ノートを几帳面にまとめ、活用できる力
ク、学習に対する工夫と創造力
ケ、自己抑制力
コ、常に希望を持ち、コツコツと努力する心

すこやか教育相談係から

ここ2年間のすこやか教育相談に寄せられる相談では、学校・教師に関すること・家庭教育の在り方についての内容が多く、次いで友人関係・いじめ・不登校に関することです。ある相談の中から気がついたことがあります。「学校で何かとトラブルを起こし、教師も親もその子への対応に困っている」ということでした。話から、担任教師も一生懸命、親も一生懸命にその子のために取り組んでいます。でも、何故か両者は平行線です。家庭の中では、手伝いもよくするし、本もよく読み、ボーイスカウトやボランティア活動にも参加しています。しかし、学校からの連絡はあれも悪い、これも悪い、こんな問題も起こしていると言う指摘ばかりなので親も子どももパニックになりかけているようです。子どもの行動に表れるその原因に視点が届いていないのでは?つまり、子どもへの配慮が不足しているからです。現代っ子たちは、小さい頃から降り注ぐような情報の中で生活しています。情報の弱者としての子どものことを考えると、大人が考えている以上に、前期思春期の段階などでは、心の思いをどのようにして他人に伝えてよいかわからないことが多いようです。

教師も親も周囲の人も視点を変えて子どもに接してみると気持ちにゆとりを持って成長を見守り、育てていけるのではと思います。教師も少しでも子どもの良さを家庭に伝えましょう。親も子どもをちょっと大人として扱ってみましょう。友人関係・いじめ・不登校などの行動も視点を変えて、子どものアドバイスをしてみること、見えてくるものがあるように思われます。

電話の向こうで、親御さんの声が少しずつ明るくなって行くのを実感しました。



研修の感想紹介

カウンセリング研修

- カウンセリングの前提として、自分の嫌な面やコンプレックスをカウンセラー自身が理解することが必要だということが分かった。(小・M)
- 「聞く」から「聴く」姿に「見る」から「観る」姿に育てていくのは教師である。子どもに温かい「まなざし」をもって模範となれるよう日々努力していきたいと感じた。(小・W)
- 教師は子どもの発達段階におけるそれぞれの課題を理解し、子どもの心の健康を保つことができるようにしていかなければならないと感じた。(小・W)
- 人の気持ちを的確に捉えるには、心理学での知識を生かすことの大切さを感じました。この心理学で言われていることも、相手の気持ちをよりよく知ろうとする温かみが根底になければ、子ども理解のための知識にはならないと思いました。(小・M)

ES@SCHOOL活用講座

- 子ども同士でコンピュータの画面を使ってコミュニケーションを図るソフトがあるのに、今まで全く分からず活用されていなかったのが、とてもよい機会となった。メール、会議室、データベース、掲示板など機能に合った活用をしていくには自分自身がうまく使いこなせるようにし、教えていかなければならないと思った。(小・W)
- ES@SCHOOLの講座は今回で2回目であるが、「こういう使い方があるのか...」という発見が多かった。情報分野しか活用できないと思う気持ちが強く、特別活動や総合的な学習、道徳にも活用できることを知った。(中・M)
- 児童はインターネットを利用して調べ学習や文書の作成をイメージしているようなので、ESを使って掲示板やメールなどにも多く触れさせたいと考えています。(小・M)